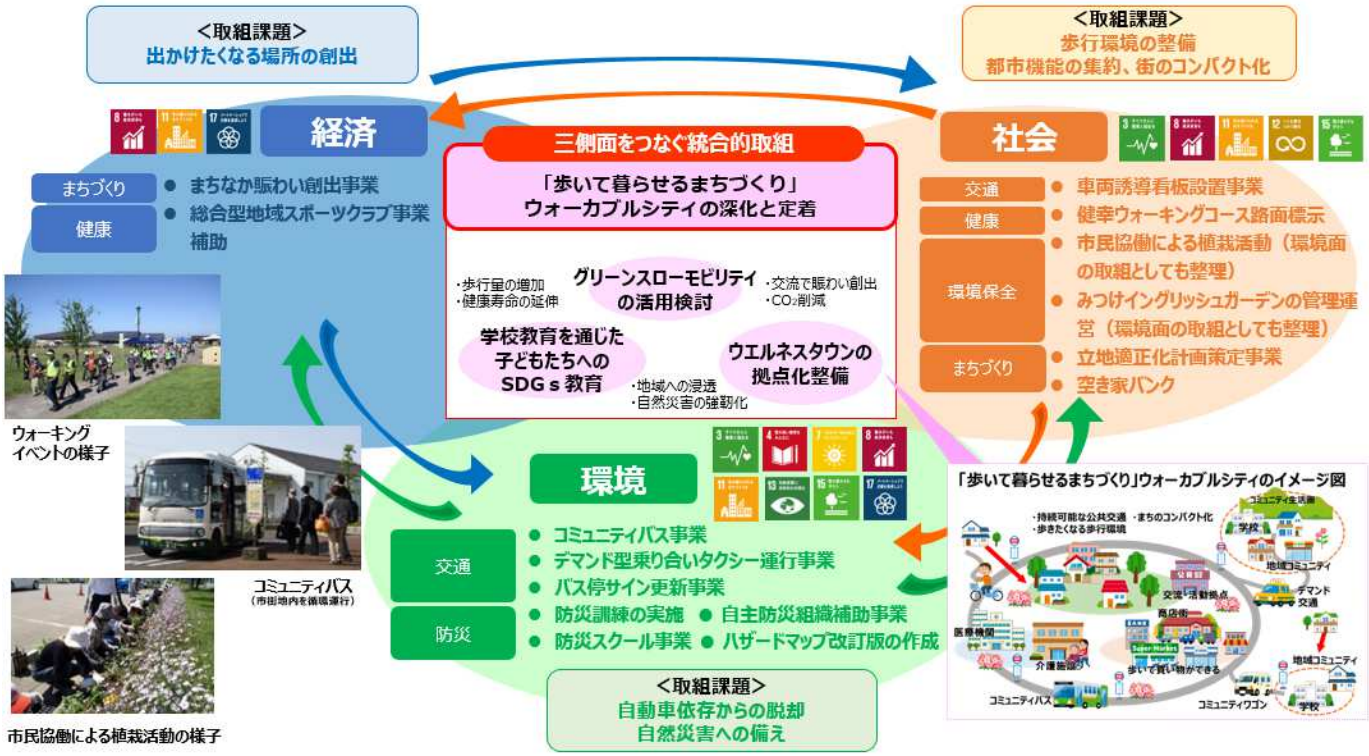
見附市SDGs未来都市計画（R1～R3の3か年計画）

資料4

～「歩いて暮らせるまちづくり」ウォーカブルシティの深化と定着～

1.目標及び課題	目標である**「住んでいるだけで健康で幸せになれる健幸都市」**の実現にあたっては、**①日常生活で必要な運動量が確保される「歩いて暮らせるまちづくり」の推進**、**②社会参加を通じた交流の喜びや生きがいの享受**がポイントであり、公共交通の整備や誰もが社会参加しやすい場所、環境を整えることで誘導を図り、市民の行動変容に繋げていく。	2.関連するゴール	
3.取組の概要	「歩いて暮らせるまちづくり」の推進により、**歩くことで健康増進を図るとともに、まちなかに歩行者を増やし、人と人とが触れ合え交流でき、賑わいのある中心市街地として都市機能を集約し、将来に渡り持続できる都市形成**を図る。ポイントとしては、**①外出しやすくする仕掛け**、**②賑わいを創出する仕掛け**、**③市民の行動変容を誘導する仕掛け**の３つの視点を持って、総合的に施策を展開する。		

■これまでのSWC施策をSDGs的に整理して、SDGs未来都市計画を構築
→見附市のSDGsは、これまでの健幸まちづくりの延長線上にある取り組み



●KPIの進捗状況

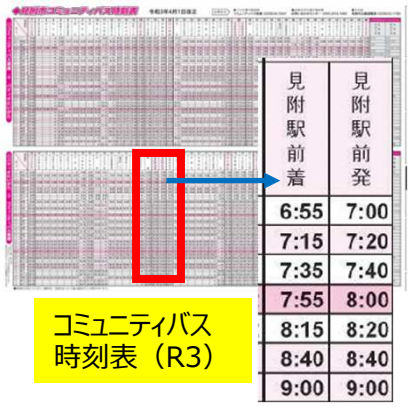
→全体的には約60%程度の達成度と分析

	KPI	R1	R2	現在(R3)	目標(R3)	達成状況
1	コミュニティバス利用者数	184,647人	160,381人	**165,843人**	200,000人	×
2	創業・起業の件数（累計）	24件	27件	**33件**	24件	○
3	中心市街地での出店数（累計）	11件	11件	**14件**	12件	○
4	介護認定率の伸び率の抑制	17.6%	17.6%	**17.3%**	18.1%	○
5	主要企業の地元就労率	40.3%	41.6%	**43.2%**	50.0%	×
6	見附市外から転入した人数	+71人	+85人	**+57人**	合計+150人	○
7	20代30代の社会動態	△57人	△20人	**△54人**	+15人	×

令和３年度の取り組み

①公共交通の利便性向上

・朝夕の通勤通学時の時間帯について、コミバスの運行間隔を30分→20分に短縮。
・覚えやすさを意識し、見附駅からの発車時間に定時制を持たせたバスダイヤに改善。
・公共交通間の乗り換えがスムーズに行えるように、インターネット経路検索サービスにコミバスのダイヤ情報を提供。
・利便性向上に努めた結果、対前年比103%の利用者数増となった。



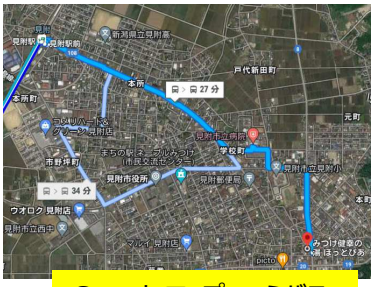
見附駅前着	見附駅前発
6:55	7:00
7:15	7:20
7:35	7:40
7:55	8:00
8:15	8:20
8:40	8:40
9:00	9:00

コミュニティバス時刻表（R3）

②教育機関と連携したSDGsの啓発活動

・市内の見附高校と連携し「見附市の未来像」をテーマにSDGs学習を実施。SDGsの側面から地域課題を理解し、高校生の視点からの解決策を研究。
・見附高校生と市民団体が連携して発表会を開催し、地域を活性化するためのアイデアを一般市民向けに発表。発表会にはマスコミ各社や市議会議員など、100名程度の観覧者を集め、SDGsの普及啓発に寄与した。

高校生たちの発表の様子



Googleマップでコミバスのルート検索

令和４年度の取り組み

①第2期SDGs未来都市計画（2022～2024）を策定

・第1期計画をフォローアップしていくことを主目的として、3年間の第2期計画を策定。
・「歩いて暮らせるまちづくり」というメインテーマは変更しないものの、「仕事と子育てが両立できる環境整備」や「魅力的な運動機会の提供」といった分野の事業進捗を確認するためのサブKPIを追加・修正。

第2期計画のポンチ絵

②公共交通の利便性向上

・コミバス運行ルートの課題分析から、人口密度が高い割に公共交通空白地域であった葛巻地区を運行するルートへの変更を検討。
⇒R4年度の春からバスルートを改定。
・利用動態分析から午後8時以降になると利用者数が減少する傾向があることから、深夜便を取り止め、日中帯の便を増やすことを検討。
⇒深夜便を取り止め日中帯の便に振り替え。1日の運行本数69便を継続。

コミバス葛巻運行ルート

③教育機関と連携したSDGsの啓発活動

・見附高校生が発表した「地域を活性化するためのアイデア」を出来るだけ実現すべく、市民団体と連携して検討。
⇒イングリッシュガーデン×花と緑のまちづくり×コミバスを組み合わせた「ハナバス」イベントや高校生自らが企画・実施する文化祭イベント「アオ祭」等を支援。
・長岡造形大学、新潟経営大学との連携
⇒SDGsをテーマとしたセミナーや講座において、当市のまちづくりを講演。

高校生たちの活動の様子